



ラン攻撃爆発の富士通フロンティアーズ、パナソニック インパルスを下してライスボウル連覇！ 7度目の戴冠

—アメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第76回ライスボウル—



パナソニック インパルスと富士通フロンティアーズによるアメリカンフットボール日本選手権プルデンシャル生命杯第76回ライスボウルが1月3日、東京ドームで開催された。社会人王者とアメフト日本一をかけた頂上決戦は、富士通が29対21で勝利して2年連続7度目のXリーグ王座に就いた。

パナソニックは、富士通の最初のオフェンス機会をパントに追い込み、自陣37ヤードから攻撃を開始。すると、クォーターバック (QB) ジェイロン・ヘンダーソンが複数のレシーバーに落ち着いてパスを投げ分けて敵陣まで侵攻する。さらにランニングバック (RB) ミッチェルビクタージャモ어의連続ラン攻撃でゴール前3ヤードまでボールを進めると、最後はRB ミッチェルがエンドゾーン手前でディフェンダーのタックルに倒されそうになりながらもダウン寸前に執念の一伸びでゴールラインを越え、パナソニックが7-0と幸先良く先制した。

なおもパナソニックは、富士通のフィールドゴール失敗により自陣27ヤードで攻撃権を得ると、RB ミッチェルが相手ディフェンスをするりとかわして73ヤードの独走タッチダウンラン。ビッグプレーが飛び出したパナソニックがリードを14点に広げた。



前半のうちに1本でも返しておきたい富士通は、自陣41ヤードからのドライブでRBトラシオン・ニクソンのランが出始めパナソニック陣内までボールを進める。さらに、QB高木翼からワイドレシーバー (WR) 松井理己へパスが通りゴール前11ヤードまで進んだものの、エンドゾーンは遠く、フィールドゴールで3点を返すにとどまった。

守備陣の奮闘でパナソニックの攻撃シリーズを2回連続でストップした富士通は、敵陣34ヤードの好ポジションからオフェンスをスタート。徹底したRBニクソンのラン攻撃に加え、QB高木のパスも効果的に決まりオフェンスにリズムが出てくる。ラストはRBニクソンが中央を突く12ヤードのタッチダウンランを決めた。試合はそのまま前半を終了し、パナソニックの4点リードで折り返した。



後半をオフェンスから始めたパナソニックは、QB ヘンダーソンのランを軸に攻撃を展開。確実にゲインして敵陣まで歩を進めると、ゴール前 10 ヤードでは QB ヘンダーソンから左サイドへ待ち構えていた WR 渡邊ジャマールへタッチダウンパスをヒット。パナソニックは、後半最初のドライブで加点して点差を再び 11 に広げる。

突き放された富士通は、QB 高木のパスなどで敵陣に攻め込むと、意表を突く WR 木村和喜のジェットスイープで 36 ヤードをゲインして一気にゴール前 9 ヤードへ。ここで右へのピッチプレーでボールを受けた RB ニクソンが頭からエンドゾーンに飛び込む気迫のドライブでタッチダウン。点差を縮めるためにキックではなく 2 点コンバージョンを狙うが、パナソニックの守備に阻まれた。

5 点差を追う富士通は、自陣 41 ヤードからの攻撃シリーズでは、RB ニクソン、QB 高木と WR 松井の“トリプレック”が躍動。わずか 3 プレーでゴール前 9 ヤードまで攻め込み、ニクソンのランを挟んだ後のプレーで QB 高木が右にロールアウトしながらレシーバーを探す。そして、エンドゾーン内の右コーナーへ走ってきた WR 小椋恭平へストライクのパスをヒット。2 点コンバージョンは再び失敗に終わったが、富士通はこの試合初めてリードを奪い、勝負の行方は最終クォーターに委ねられた。

追う立場となったパナソニックは、RB ミッチェルの好リターンで敵陣 47 ヤードの好位置からオフェンスをスタート。しかし、レッドゾーン内に侵入した直後の攻撃でディフェンスのパスラッシュを受けた QB ヘンダーソンがエンドゾーン目がけてパスを投じたところ、待ち構えていたのは富士通の DB 高岡拓稔。この試合初めてのターンオーバーで、貴重な攻撃権を喪失した。

富士通は次のオフェンスドライブで RB ニクソンのパワフルなラン、QB 高木のパスが冴え渡った。ゴール前 4 ヤードまで攻め込むと、RB ニクソンが中央を突いてエンドゾーンまでボールを運び、この試合 3 つ目のタッチダウンを挙げた。

試合時間残り 3 分 14 秒、富士通は守り切れば 2 年連続優勝が決まる。パナソニック陣 25 ヤードからのドライブでフォースダウンギャブルを決められるなどレッドゾーン内まで攻め込まれた。しかし、DB 高岡がこの日 2 つ目となる値千金のインターセプト。最後は時間を消費して、無敗のパーフェクトシーズンを達成した。



なお、大会最優秀選手賞「ボール・ラッシュ杯」(MVP) には、ラン 28 回で 188 ヤード、3 タッチダウンランをマークした富士通の RB ニクソンが選ばれた。ニクソンは、X リーグ MVP とダブル受賞となった。

【本件に関するお問い合わせ】

一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会
事業部広報 生澤 (いけざわ)
TEL : 090-3472-7937 email: h.ikezawa@xleague.jp